

2021年度「大村知事と語る会」
意見交換者のプロフィール（五十音順・敬称略）

① おおにし やすし
大西 康史

合同会社フォレストエネルギー新城
代表社員 CEO



【プロフィール】

- ・1999年 京大ゴミ部に参加し、環境保全活動を開始。
- ・2012年 東日本大震災を機に、広島県庁（環境技術吏員）を退職し、独立・起業。
- ・2012年～2015年 広島・京都・新城で地域主導型再生可能エネルギー事業等に挑戦。
- ・2015年 新城市地域おこし協力隊員として、木質バイオマスエネルギー事業の事業化検討調査を開始。
- ・2017年 新城市薪生産協議会の設置に伴い、協議会コーディネーターに就任。
- ・2018年～現在 合同会社フォレストエネルギー新城を設立し、代表社員CEOに就任。
新城市から、薪生産及び木質バイオマスボイラー運転業務を受託し、湯谷温泉において、地域の未利用材を活用した木質バイオマス熱利用に関する事業を実施・運営。
- ・他に、環境カウンセラー（環境省認定）、持続可能な地域創造ネットワーク事務局等としても活動。

② くるみや ちはる
久留宮 小春

命をつなぐPROJECT 学生実行委員会
2020年度学生実行委員長



【プロフィール】

- ・2018年 人間環境大学環境科学科に入学。
その後、命をつなぐPROJECT*学生実行委員会に加入。
- ・2020年 命をつなぐPROJECT 学生実行委員会 2020年度学生実行委員長に就任。命をつなぐPROJECTが、「あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス」に選定。また、「令和2年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞。
- ・2021年 命をつなぐPROJECTが、「2021年度持続可能な社会づくり活動表彰 環境大臣賞」を受賞。
- ・現在は、学生実行委員長を次の世代へ引き継ぎ、同PROJECTメンバーの一員として活動している。

※命をつなぐPROJECT：知多半島の企業緑地群（グリーンベルト）を舞台に、生物多様性向上と次代の担い手育成を目指す産学官民連携のプロジェクト。

③ しみず 清水 じゅんこ 潤子

ハンター、山里カフェ^{ムイ}Mui 店主



【プロフィール】

- ・2014年 狩猟免許（わな・網）を取得。猟師として有害鳥獣駆除に従事。
- ・2017年 ジビエ料理が食べられる「山里カフェ Mui」を豊田市足助地区に開業。
- ・2018年 「輝く女性 ソーシャルビジネスプランコンテストあいち 2018 愛知県知事賞」受賞。
- ・2018年 獣肉処理施設において食肉処理業・食肉販売業を取得。
- ・現在は、ハンターとして有害鳥獣（鹿など）の駆除をしつつ、「山里カフェ Mui」を経営。

④ はらだ 原田 さとみ

エシカル・ペネロップ株式会社
代表取締役



【プロフィール】

- ・1987年 モデルデビュー後、東海圏にてタレントとして活動。
- ・2009年 JICA 中部オフィシャルサポーターに就任。
- ・2010年 エシカル・ペネロップ株式会社を設立。
- ・2012年 フェアトレード&エシカル・ファッションとテレビ塔グッズのセレクトショップ「エシカル・ペネロップ」（名古屋テレビ塔1階）をオープン。
- ・2015年 「フェアトレード名古屋ネットワーク」代表に就任。
- ・2017年 「一般社団法人日本エシカル推進協議会」設立。協議会理事に就任。
- ・2018年 JICA 理事長賞受賞。
- ・2020年 「一般社団法人 日本フェアトレード・フォーラム」代表に就任。

⑤ ふじえ まさよ
藤江 昌代

渥美半島☆自然感察ガイド 代表



【プロフィール】

- ・2004年 東京環境工科専門学校自然環境保全学科に入学。
- ・2006年 世界自然遺産である屋久島へ移住し、ネイチャーガイドを開始。
- ・2017年～現在 地元・田原市で「渥美半島☆自然感察ガイド」を立ち上げ、渥美半島の自然の魅力を伝えるネイチャーガイドとして活動。

⑥ わたらい かずひと
渡会 一仁

株式会社渥美フーズ 代表取締役社長



【プロフィール】

- ・1995年 株式会社渥美フーズに入社。
- ・2001年 株式会社渥美フーズが運営する「スーパーマーケットあつみ」を、高質エコスタイル店舗である「フードオアシスあつみ」へ店舗改装。
- ・2011年 株式会社渥美フーズ 代表取締役社長に就任。
- ・2013年 食をめいっぱい楽しむ厳選食品館「ビオ・あつみエプスリー浜松」を出店。
- ・2019年 食育アミューズメント型オーガニック食品館「ビオ・あつみエプスリー豊橋」を出店。ゼロ・ウェイスト・ショップ*への取組を展開。
- ・2021年 豊橋市・浜松市で1.5haのオーガニック農場「OasisFarm」を展開。店舗から出る生ゴミを堆肥化して資源循環させるエコサークル活動を推進。

※ゼロ・ウェイスト・ショップ：必要な分だけ買える量り売りやリユース容器の使用により、ゴミを出さずに買い物ができる店舗。